高志の国
文学館
KOSHINOKUNI
Museum of Literature

高志の国文学館 年報

平成28年度

高志の国文学館 年報

平成28年度

目　次

Ⅰ　平成28年度のあゆみ

平成28年度のあゆみ…… 4

Ⅱ　事業内容

1　展示活動…… 6

2　資料概況…… 16

3　教育・普及事業…… 17

4　高志の国文学館友の会…… 27

Ⅲ　管理・運営

1　利用状況…… 30

2　施設の概要…… 32

3　機構…… 33

4　組織…… 34

Ⅳ　資料

沿革…… 36

Ⅴ　関係法令

関係法令…… 38

Ⅰ　平成28年度のあゆみ

平成28年度　高志の国文学館のあゆみ

年　月　日	事　　項
平成28年３月21日	**企画展「夢二の旅ーたまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」（５月16日まで）**
４月10日	観桜の集い2016 in 高志の国文学館
４月17日	文芸サロン（主催：日本ペンクラブ富山の会）（３月19日まで　全５回）
５月22日	文学講座（大学連携シリーズ）（６月18日まで　全４回）
６月３日	ギャラリー展「富山映画展－スクリーンの中の人と風景－」（６月27日まで）
６月27日	大伴家持生誕1300年記念事業　高校生のための平成万葉塾（10月17日まで　全６回）
７月３日	入館者50万人達成
７月９日	**企画展「面白い箱！アニメづくりのスタジオの中へ」（10月10日まで）**
７月10日	平成28年度「高志プロジェクト」優秀団体の発表
７月30日	読書感想文サポート講座
８月７日	アフレコチャレンジ教室（第３回サブカルチャー講座）
８月27日	アニメ作画チャレンジ教室（第３回サブカルチャー講座）
９月３日	文学講座（ゆかりの文学者シリーズ）（10月８日まで　全４回）
９月15日	観月の集い2016 in 高志の国文学館
９月16日	大伴家持生誕1300年記念事業　平成の越中万葉－中学生短歌講座－（10月31日まで　全４回）
９月30日	朗読と音楽の夕べ（11月26日まで　全５回）
10月１日	映画「カノン」パネル展
10月16日	平家琵琶演奏会（（公財）富山県文化振興財団と共催）
10月22日	「高志の国文学」情景作品コンクール入賞作品展示（12月５日まで） （主催：富山県教育委員会）
10月23日	文学講座（巨人の物語をひもとく）（12月３日まで　全４回）
10月29日	**企画展「浅野総一郎ー九転十起の生涯」（12月19日まで）**
10月29日	とやま室内楽フェスティバル（主催：（公財）富山県文化振興財団）
11月23日	小学生による朗読劇
11月27日	朗読とおわらの集い
12月11日	炉辺暖話（３月12日まで　全６回）
平成29年１月７日	書道パフォーマンス（３月11日まで　全２回）
１月14日	**企画展「知られざる 作家の世界ー書簡から直筆原稿、書画まで」 （２月20日まで）**
１月22日	第３回高校生による朗読会
１月29日	大伴家持生誕1300年記念事業　家持シンポジウム「歌をよむ国司・家持が歩いた越中の風土」 （主催：富山県）
２月12日	柳原正樹氏（富山県水墨美術館顧問）特別講演会「美術よもやま話－杉山寧と三島由紀夫」 （高志の国文学館友の会、富山県水墨美術館友の会、富山近美友の会　共催）
３月19日	**企画展「官人 大伴家持ー困難な時代を生きた良心」（６月５日まで）**
３月26日	越中万葉・東京シンポジウム　大伴家持生誕1300年記念 「いま、富山へ－万葉歌人の詩心をはぐくんだ風景」（主催：富山県）

II 事業内容

1. 展示活動

□常設展示

概　要

常設展示では、当館の収蔵資料を中心に、万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代文学に至るまで、富山県にゆかりのある作家や作品の魅力を紹介している。また、文学だけでなく、漫画や本県ゆかりの先人についても紹介している。

＜ふるさと文学の回廊＞

富山県ゆかりの代表的な文学者10人を、パネルや直筆原稿などの資料で紹介。このうちの５人については、順次展示替えを行うこととしている。また、回廊内に設置した４つのデジタル万華鏡では、大伴家持の生涯や山岳文学、富山県ゆかりの漫画家や先人について紹介。

「ゆかりの文学者たち」コーナー

＜ふるさと文学の蔵①＞

古代・中世の富山県ゆかりの文学作品を紹介するとともに、大書架「知の蓄積」では、富山県ゆかりの書籍や寄贈された資料を展示。

体験型装置「万葉とばし」では、大伴家持が詠んだ歌を音と映像で紹介。

体験型装置「万葉とばし」（左）と大書架「知の蓄積」（右）

＜ふるさと文学の蔵②＞

「ふるさと文学年表」により、万葉の時代から続く富山の文学について、その変容と発展を時代背景とともに紹介。

＜ふるさと文学の蔵③＞

富山県ゆかりの漫画家をパネルや愛用品とともに紹介。デジタル装置「不思議な本」では、漫画・アニメーションの制作工程を学ぶことができる。

このほか、富山大学附属図書館に所蔵されているヘルン文庫（小泉八雲の旧蔵書）資料や、富山が輩出した先人について紹介。

「ゆかりの漫画家」コーナー

「越中の先人」コーナー

□展示構成

平成29年3月31日現在

展示場所	展示の名称	展示の概要
導入展示	文学鳥瞰地図	富山県内に点在する文学ゆかりの地等を検索
	ふるさと文学万華鏡	大伴家持の生涯や山岳文学の歴史をデジタル絵巻で紹介
ふるさと文学の回廊	「ゆかりの文学者たち」コーナー	筏井竹の門 小寺菊子 前田普羅 翁　久充 佐伯彰一 源氏鶏太 堀田善衛 柏原兵三 木崎さと子 宮本　輝
	ふるさと文学万華鏡	富山県ゆかりの漫画家や先人を映し出すデジタル万華鏡
ふるさと文学の蔵①	大書架「知の蓄積」	富山県ゆかりの書籍や寄贈資料を展示
	万葉とばし	大伴家持が越中で詠んだ歌を音と映像で紹介する体験型装置
	古代の文学／中世・近世の文学	万葉集、立山曼荼羅等を紹介
	辺見じゅんコーナー	辺見じゅん氏ゆかりの寄贈資料を展示
ふるさと文学の蔵②	ふるさと文学年表	万葉の時代から現代に至るまでの富山県ゆかりの文学を紹介
ふるさと文学の蔵③	「ゆかりの漫画家」コーナー	藤子不二雄Ⓐ 藤子・F・不二雄 山根青鬼 山根赤鬼 まつもと泉 原　秀則 花咲アキラ
	ヘルン文庫コーナー	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 南日恒太郎
	「越中の先人」コーナー	安田善次郎 浅野総一郎 高峰譲吉 大谷米太郎 松村謙三 馬場はる

（注1）ゆかりの文学者および先人の一部について、関係の機関や個人より実物資料を借用のうえ展示した。
（注2）ヘルン文庫の展示については、富山大学附属図書館の協力を得て、所蔵資料の借用・展示を行った。28年度は4回の展示替えを行った。

□企画展示

(1)企画展「面白い箱！アニメづくりのスタジオの中へ」

会　　期／平成28年７月９日㈯～10月10日(㈪・祝)
主　　催／高志の国文学館
特別協力／株式会社 P.A.WORKS
後　　援／一般社団法人 日本アニメーター・演出協会、一般社団法人 日本動画協会
企画協力／一般社団法人 地域発新力研究支援センター PARUS
担　　当／大川原竜一
観覧者数／6,302人
出品点数／296点
印 刷 物／ポスターＢ２判　　チラシＡ４判　　リーフレットＡ４判

チラシ　表

チラシ　裏

趣旨・総括

アニメーションなどの映像制作の業界において、作品が完成した時に制作に携わったスタッフが最初に手にする公開前のビデオテープなどのメディアは白いケースに入れられたことから、「白箱」（しろばこ）と呼ばれています。本企画展のタイトルには、アニメーションをめぐるたくさんの「面白い」が詰まったいわば「面『白』い『箱』」のようになればという期待がこめられています。

本展では、アニメーションづくりの現場であるスタジオを展示室の中に再現しました。観覧者には、作品が生まれるまでの過程をたどりながら、今のアニメーション制作の舞台裏を知ってもらうとともに、そこにこめられた作品づくりへの情熱とワクワク感を伝えるべく企画されました。

企画・シナリオ、キャラクターデザインなどの設定、原画・動画などについて、実際の現場で使用されている机や道具、成果物を展示しました。さらに、様々な工程を経て完成した「作品」として、富山県が毎月第３日曜日と定めている「とやま県民家庭の日」を描いた作品『マイの魔法と家庭の日』をはじめ、『クロムクロ』や、『true tears』『恋旅』という富山を舞台モデルとして描いたアニメーション作品を紹介しました。作品パネルや映像のほか、実際に使用された台本など、普段はみることができない貴重な資料も展示しました。

会期中には、日本大学の津堅信之氏、小松短期大学の由谷裕哉氏、富山大学の西田谷洋氏の講演会や、『マイの魔法と家庭の日』と当館オリジナルアニメ『アニメ　マイの越中万葉体験記』のＤＶＤ上映会および展示解説、株式会社 P.A.WORKS 制作業務部長の相馬紹二氏のギャラリートーク、代々木アニメーション学院によるアフレコ チャレンジ教室とアニメ作画 チャレンジ教室を開催しました。

「アニメの作り方」コーナー

アフレコ・ダビング セクション

「アニメのできるまで」コーナー

□関連行事

①講演会

開催日	講　師	演　題	参加者数
7月23日(土)	津堅　信之 氏 (日本大学藝術学部映画学科)	「なぜ日本人はアニメが好きなのか」	30
8月21日(日)	由谷　裕哉 氏 (小松短期大学地域創造学科教授)	「アニメツーリズムについて」	23
9月10日(土)	西田谷　洋 氏 (富山大学人間発達科学部教授)	「文学がアニメとして流通するということ－第二次テクスト化された村上春樹」	20

②ＤＶＤ上映会＆展示解説

開催日	作　品	参加者数
7月18日(月･祝)、24日(日)、8月13日(土)､14日(日)、28日(日)、9月4日(日)、19日(月・祝)、10月9日(日)、各日2回	『マイの魔法と家庭の日』 『アニメ　マイの越中万葉体験記』	204

③ギャラリートーク

開催日	ゲスト	参加者数
9月24日(土)	相馬　紹二 氏（株式会社 P.A.WORKS 制作業務部長）	30

④アフレコチャレンジ教室

開催日	講　師	参加者数
8月7日(日)	中村　順一 氏（代々木アニメーション学院金沢校）	57

⑤アニメ作画チャレンジ教室

開催日	講　師	参加者数
8月27日(土)	片山　義昭 氏（代々木アニメーション学院大阪校）	33

⑵企画展「浅野総一郎－九転十起の生涯」

会　　期／平成28年10月29日㈯～12月19日㈪
主　　催／高志の国文学館
特別協力／ＮＰＯ法人　九転十起交流会
観覧者数／1,554人
出品点数／100点
印 刷 物／ポスターＡ１判　　チラシＡ４判
リーフレットＡ４判

チラシ　表

チラシ　裏

果敢な実行力と不屈の精神で、日本の近代化に大きな足跡を残したのが、富山県出身の実業家・浅野総一郎です。

総一郎は、若くして大商人になることを夢見て、多くの事業を手掛けますが、当初は失敗の連続でした。それでも、何度でも挑戦する不撓不屈の精神で、失敗のたびに立ち上がり、自分の信じる道を突き進んでいきました。やがて竹皮・薪炭・コークスなどの商いで成功したのを転機に、セメント事業をはじめ、海運業や炭鉱開発、水力発電、埋立事業などへと事業を展開し、一代で浅野財閥を築く大実業家へと躍進していきました。

本展では、資料を通して浅野総一郎の人間性に迫りました。

片山春帆が描いた総一郎の一代記「浅野総一郎自解」などの資料をもとに、何度失敗してもくじけないたくましさを紹介しました。また、浅野セメントや東洋汽船、東京湾埋立事業など、事業関連の資料から、総一郎の卓越した先見性･行動力について見ていきました。総一郎は迎賓館を兼ね備えた邸宅「紫雲閣」を建てましたが、本展ではその内装の一部を再現し、総一郎が早くから世界に目を向けていたことを解き明かしました。

総一郎の躍進は、最大の理解者であり支援者であった渋沢栄一と安田善次郎の二人の力を抜きには語れません。この二人との交流のようすを、残されている日記や手紙などを通して紹介し、総一郎の人間的魅力に迫りました。

会期中には、『九転十起の男―日本の近代をつくった浅野総一郎』（毎日ワンズ、2007年）などの著書で知られる新田純子氏の講演のほか、市川徹監督のトークイベントおよび「九転十起の男」三部作の上映会、そして「浅野総一郎ゆかりの地巡りバスツアー」などを実施しました。

本展は富山の生んだ「巨人」に焦点をあてた「巨人」展の第一弾として開催し、常設展示「越中の先人コーナー」とリンクした展示となりました。

企画展示室　展示風景

「九転十起の像」（浅野総一郎立像）

導入展示　展示風景

□関連行事

①文学講座

開催日	講　師	演　題	参加者数
11月３日（木・祝）	新田　純子 氏（作家）	「浅野総一郎．九転十起の生涯」	120

②映画監督が語る浅野総一郎

開催日	講　師	参加者数
11月23日（水・祝）	市川　徹 氏（映画監督）	56

③映画三部作上映会

開催日	作　品	参加者数
11月６日（日）	「九転十起の男1　青春編」	39
11月12日（土）	「九転十起の男2　激動編」	45
12月10日（土）	「九転十起の男3　グッドバイ」	90

④テレビ番組上映と担当員によるギャラリートーク

開催日	作　品	参加者数
11月５日（土） 11月26日（土） 12月４日（日） 12月17日（土）	「越中人譚　時代の冒険者たち　第一話 ～近代日本を築いた越中魂～（浅野総一郎／安田善次郎）」	91

⑤バスツアー

開催日	訪問先	参加者数
11月27日（日）	浅野総一郎生誕の地、小牧ダム観光、庄川水記念公園など	33

⑶企画展「知られざる 作家の世界　―書簡から直筆原稿、書画まで」

会　　期／平成29年１月14日㈯～２月20日㈪
主　　催／高志の国文学館
担　　当／綿引香織
観覧者数／835人
出品点数／119点
印 刷 物／ポスターＡ１判　　チラシＡ４判

チラシ　表

チラシ　裏

趣旨・総括

開館４年を迎えた高志の国文学館では、このたびはじめての収蔵資料展を開催いたします。

寄贈や寄託、購入等により文学館にはさまざまな資料が集まって来ていますが、通常の常設展や企画展で紹介できるのは、そのうちの限られた部分です。そこで今回の企画展では、普段公開する機会が少ない資料を含め、作家の原稿や書簡、書画、愛用品など、今日まで収集してきた貴重な資料をご紹介していきます。

片山廣子による芥川龍之介宛書簡の展示コーナー

今回展示する資料のなかには、片山廣子（松村みね子）が芥川龍之介に宛てた書簡のように、日本文学の研究史上注目度の高い資料や、源氏鶏太や岩倉政治などの富山ゆかりの作家の貴重な直筆資料があります。原稿や書簡、ノートなどは、作家の創作の内面を垣間見せてくれるものであり、色紙や短冊、書画などは、作家の別の一面をうかがわせる資料でもあります。誰もが耳にしたことのある文学者たち、郷土ゆかりの作家たちの人となりや作品世界をさらに深く知るきっかけとなるのではないでしょうか。

高志の国文学館の多彩な収蔵資料について、ゆっくりとご覧いただく機会となれば幸いです。

富山ゆかりの作家の直筆資料や愛用品等を展示

富山ゆかりの作家が描いた書画を展示

□関連イベント

①文学講座

開催日	講　師	演　題	参加者数
1月14日（土）	庄司　達也 氏（横浜市立大学教授）	「片山廣子と芥川龍之介―『越し人』からの思い、『越し人』への思い」	41

②文学講座

開催日	講　師	演　題	参加者数
2月11日（土・祝）	久泉　迪雄 氏 （富山県歌人連盟顧問、綺羅短歌の会主宰）	「富山文芸における歌のあゆみと展望」	40

③文学講座

開催日	講　師	演　題	参加者数
2月18日（土）	鈴木　暁世 氏（金沢大学准教授）	「アイルランド文学翻訳者としての松村みね子」	41

④朗読会

開催日	出演者	タイトル	参加者数
1月28日（土）	平島亜由美 氏、佐藤栄治 氏 （北日本放送アナウンサー）	「片山廣子と芥川龍之介－書簡と作品から」	46

⑷企画展「官人（つかさびと）　大伴家持－困難な時代を生きた良心」

会　　期／平成29年３月19日㈰～６月５日㈪
主　　催／高志の国文学館
連携協力／九州歴史資料館、斎宮歴史博物館、高岡市万葉歴史館、東北歴史博物館、鳥取市因幡万葉歴史館、奈良県立万葉文化館、わくや万葉の里 天平ろまん館
担　　当／生田美秋（総括）　大川原竜一（主務）小林加代子（図録・イベント）
観覧者数／552人（平成28年度中）（全会期中は、4,769人）
出品点数／210点
印 刷 物／ポスターＡ１判　　チラシＡ４判　図録Ａ５判

チラシ　表

チラシ　裏

趣旨・総括

大伴家持は、現存する最古の歌集『万葉集』の編纂に関わったとされ、奈良時代を代表する歌人であると同時に、他の貴族とともに政治に携わり、波乱の歴史を生きぬいた一人の官人でした。

本展では、北は宮城県から南は福岡県まで、家持が赴任した地にある博物館等が所蔵する貴重な資料を一堂に展示し、困難な時代を懸命に生きた良心の叫びともいえる数々の歌をまじえながら、官人としての仕事から家持の人物像に迫りました。

第１部「内舎人として」では、幼少期を父とともにすごした大宰府や、天皇の住まいである平城宮、また聖武天皇の東国行幸に従駕した際の恭仁宮の資料を展示し、家持の少年時代と、エリートとして朝廷へ出仕した青年時代を紹介しました。第２部「国司として」では、家持が越中をはじめ因幡、伊勢などに派遣され職務に従事した時代をとりあげ、地方の政務をつかさどった国司の仕事を、越中国府跡や伊勢国府跡の考古資料でみていきました。第３部「武門の人として」では、名門氏族の嫡流としての自負と武門の伝統を意識しつづけた家持について、将軍として赴いた多賀城の資料などをもちいて解き明かしました。

ギャラリーにおいては、マンガ家の里中満智子先生の『天上の虹　持統天皇物語』や現在執筆中の『言霊の人　大伴家持物語』の「原画」を展示しました。

会期中には、家持の筆跡が残る奈良時代の公文書（太政官符）と、家持が越中に赴任した年が記された木簡という、重要文化財を出展することができ、当館で初めて重要文化財を受け入れて公開するという貴重な体験が得られた展覧会でした。

また、中西館長の記念講演および、歌人の黒瀬珂瓏氏や青山学院大学の小川靖彦氏、帝京大学名誉教授の木下武司氏による講座を開催し、万葉衣装体験や子どもワークショップとして「和同開珎（わどうかいちん）をつくろう」「万葉仮名を書いてみよう」を開きました。

なお本展は、平成29年５月に全国植樹祭でご来県された天皇皇后両陛下にご覧いただける栄誉に浴しました。

第１部「内舎人として」展示風景

第２部「国司として」展示風景

天皇皇后両陛下ご視察

□関連行事

① 記念講演

開催日	講　師	演　題	参加者数
４月２日（日）	中西　進（高志の国文学館館長）	「家持と官（つかさ）」	160

② 連続講座

開催日	講　師	演　題	参加者数
４月15日（土）	黒瀬　珂瓏 氏（歌人）	「現代に生きる家持」	80
４月23日（日）	小川　靖彦 氏（青山学院大学文学部教授）	「『万葉集』と大伴家持」	100
５月14日（日）	木下　武司 氏（帝京大学薬学部名誉教授）	「大伴家持の歌に見る多様な植物の世界」	130

③子どもワークショップ　和同開珎（わどうかいちん）をつくろう

【開催日】３月26日（日）、４月30日（日）、５月７日（日）　各日３回開催

④子どもワークショップ　万葉仮名を書いてみよう

【開催日】４月29日（土・祝）～５月７日（日）

⑤万葉衣装体験

【開催日】５月５日（金・祝）、５月６日（土）

2. 資料概況

□資料数

		印刷物（書籍･雑誌･冊子等）	自筆資料				美術品	写真	映像・音響資料	調度品・愛用品	その他	計
			原稿	原画	書簡	色紙･短冊･軸･一枚もの、その他						
～H27年度	購入	13,020	125	10	194	32	5	33	394	2	120	13,935
	寄贈	23,305	285	91	872	1,407	108	198	169	23	273	26,731
	製作	12	10	10	6	11	2	1		1	3	56
	小計（A）	36,337	420	111	1,072	1,450	115	232	563	26	396	40,722
H28年度	購入	539	9		19	3	2		12		1	585
	寄贈	1,225	8		4	12		2	9	1	5	1,266
	製作	2	2									4
	小計（B）	1,766	19	0	23	15	2	2	21	1	6	1,855
～H27＋H28合計(A)＋(B)		38,103	439	111	1,095	1,465	117	234	584	27	402	42,577

□主な新収蔵資料

寄　贈

作者等	資料名
高崎正秀	書「紅葉まきて」「火のあとの」「神ながら」　３点
遠藤和子	原稿「家光大奥・中の丸の生涯」
ひでお・かみはら	俳句短冊　3点
田中冬二	写真「ふるさとにて　田中冬二詩碑」「黒薙温泉「くずの花」の詩碑建設除幕式」
寒潮発行所	雑誌『寒潮』創刊号～287号
源氏鶏太	個人宛葉書（昭和46年2月17日消印）
大平山濤	直筆「池田文庫」木札
朝日ソノラマ	雑誌『月刊マンガ少年』1976年9月創刊号～1981年5月号（最終号）

購　入

作者等	資料名
翁　久允	岡野他家夫宛書簡（昭和29年10月19日～昭和47年3月10日）
筏井竹の門	小川芋銭・冨田渓仙ほか宛書簡（明治44年～大正６年）
瀧口修造	草稿「身辺珍書」
堀田善衛	詩稿「亡命」「戦争／沈黙」「熱高く」「宴」
源氏鶏太	原稿「二十四歳の憂鬱　第32回」
野村尚吾	草稿「挙白」
田中冬二	色紙「雛の祭の宵たりき　紅茶のレモンの浮き沈み　わが占ふをきみしらず（後略）」
角川源義	色紙「アダムの根煌々寒の雀ども」
木俣　修	色紙「軍鶏かける土はかすかに音たてて　山の畠の冬菜をうてり」
浅野　均	越中万葉絵画「記憶と夢―二上山―」
中路融人	越中万葉絵画「黎明の射水川」
筏井竹の門	『竹の門句集』
南北社	雑誌『批評』1965年春季号（復刊第1号）～1970年春季号（第19号）（編集人：佐伯彰一）
葦附發行所	雑誌『葦附』1巻8号～2巻5号
菊地武保	明治36年版『前賢故實』巻一～巻十
本居宣長訓・長瀬真幸校	享和３年版『訂正古訓古事記』上巻～下巻

3. 教育・普及事業

平成28年度は、前年度に引き続き、企画展と連動した講演会、映画上映会、さらには、ライブラリーコーナーなどを活用した音楽イベントや導入展示の壁面を利用したパネル展など、多彩なイベントを実施した。

□観桜の集い2016 in 高志の国文学館

開催日／平成28年４月10日㈰
会　場／高志の国文学館万葉の庭（特設ステージ）
参加者／471名

平成28年４月10日（日）、桜をめでながら春にちなんだ万葉集の歌の世界などを味わう「観桜の集い2016 in 高志の国文学館」を開催。

クール・ファミーユの合唱で幕開けし、桐朋アカデミーによる弦楽四重奏が行われた後、万葉の庭に設けられた特設ステージにおいて、一般参加者や県内のテレビ・ラジオ局で活躍するアナウンサーによる詩や短歌の朗読が行われた。

続いて、和田朝子舞踊研究所と可西舞踊研究所が洋舞を披露した後、石井知事、中西館長らによる万葉集の特別朗唱が行われ、藤間藤紗枝氏、藤間紗枝重氏が日舞で花を添えた。フィナーレは、射水市出身の箏演奏家、黒川真理氏の演奏で締めくくった。

その他、高志の国文学館の研修室を利用している芸術文化団体による作品展示や、呈茶、いけばな展示、ます寿し販売が行われ、会場は多くの人で賑わった。

□ギャラリー展「富山映画展－スクリーンの中の人と風景－」

開催日／平成28年６月３日㈮～６月27日㈪
会　場／高志の国文学館エントランスロビー

「Behind The Scenes ～映画を話そう！映画と話そう！」をテーマに開催されたとやま映画祭（６/３（金）～６/12（日））の関連企画として、ギャラリー展を開催。

富山県内でロケーションを行った映画の台本や監督・出演者等の色紙、富山県ゆかりの映画・富山県出身映画監督紹介パネルや映画ポスターなどを展示。

□大伴家持生誕1300年記念事業　高校生のための平成万葉塾

大伴家持生誕1300年記念事業の一環として、昨年に引き続き開催。
県内の高校生に対して家持の普及活動を行うため、講演会（６回）を実施。

開催日	演　題	講　師	会　場
6 /27(月)	家持さんの青春時代 －恋の歌で遊ぶ－	辰巳　正明 氏 (國學院大學名誉教授)	高岡商業高校
7 / 6 (水)	万葉集を 訓んでみよう！	辰巳　正明 氏 (國學院大學名誉教授)	高岡向陵高校
7 / 6 (水)	大伴家持と越中万葉	坂本　信幸 氏 (高岡市万葉歴史館館長)	呉羽高校
7 /12(火)	文学（古典）を学ぶ意味	多田　一臣 氏 (東京大学名誉教授)	桜井高校
7 /13(水)	春苑桃季の歌を英語に訳そう	小川　靖彦 氏 (青山学院大学教授)	石動高校
10/17(月)	大伴家持が詠んだ歌・ 読んだ歌	平館　英子 氏 (元日本女子大学教授)	八尾高校

□高志プロジェクト認定証交付式、研究成果報告会

開催日／平成28年７月10日㈰
会　場／高志の国文学館研修室101

平成25年度より、富山県ゆかりの文学や郷土の研究を行うグループを公募・選考し、優れた団体に奨励金を交付する「高志プロジェクト」を行っている。これは、富山県の風土や歴史、文化をより深く調査・研究し、発信することにより、郷土の文化や魅力を再認識し、次世代へ継承することを目的としたもので、平成28年度には次の３団体が選ばれ、認定証交付式が実施された。あわせて前年度認定団体による研究成果発表会も行われた。

〔高志プロジェクト認定研究〕

	代表者氏名	研究課題名
1	黒﨑真美 氏（富山高等専門学校・富山国際大学附属高校講師）	横山源之助の人物像に迫る
2	小谷瑛輔 氏（富山大学人文学部准教授）	若者・若手作家の感性から見る富山文学
3	八尾町文化協会（会長　小谷健二 氏）	大伴家持の辟田川への巡行

※３については、大伴家持生誕1300年記念事業の一環として「大伴家持に関する研究」をテーマに募集したもの。

□文芸サロン

主催は日本ペンクラブ富山の会、共催は高志の国文学館で、県民が深く文芸を愛し、さらに創作の歓びを求めるに至ることを期待して、広く県ゆかりの文芸人の協力を求めつつ、文芸サロンを実施している。日本ペンクラブ富山の会の会員および県ゆかりの文芸人が１名ずつ話題提供し、それに対して他の会員がコメントする。その後、コメントをめぐって参加者と討論するという形式で、平成27年度に引き続き開催した。

開催日	話題提供者、課題図書	参加者数
4 /17(日)	久泉　迪雄 氏、辺見じゅん『花子のくにの歳時記』(小学館)	35
7 /17(日)	米田　憲三 氏、石川啄木『一握の砂・悲しき玩具－石川啄木歌集』(新潮文庫)	42
10/16(日)	池田　瑛子 氏、『永瀬清子詩集』(現代詩文庫)	40
12/18(日)	中坪　達哉 氏、『古寺巡礼』(岩波文庫)	39
3 /19(日)	中西　進 館長、『五重塔』(岩波文庫)	40

□読書感想文サポート講座

開催日／平成28年７月30日㈯
会　場／高志の国文学館研修室101

「原稿用紙がうまらない」、「何を書けばいいかわからない」といった声にお応えするため、小学校中学年及び低学年を対象に、読書感想文の書き方講座を実施。

今回は、富山県教育委員会西部教育事務所指導主事の筏井朋美先生と富山大学人間発達科学部の学生の指導のもと、一人ひとりに丁寧に支援した。

講　座	対象図書	参加者数
小学校中学年向け講座	『さかさ町』岩波書店	27
小学校低学年向け講座	『ひみつのきもちぎんこう』金の星社	26

□第3回サブカルチャー講座

開催日／平成28年８月７日㈰、８月27日㈯
会　場／高志の国文学館研修室101

代々木アニメーション学院より講師を招聘して、アフレコチャレンジ教室及びアニメ作画チャレンジ教室を開催した。

アフレコチャレンジ教室では、講師の方のお手本の後、グループごとに分かれて配役や台本の読み合わせを行い、その後、実際の映像に合わせて吹き替えを行った。

アニメ作画チャレンジ教室では、作画を通して、アニメの仕組みについて体験した

開催日	講　座	参加者数
8 / 7（日）	アフレコチャレンジ教室	57
8 /27（土）	アニメ作画チャレンジ教室	33

□観月の集い2016 in 高志の国文学館

開催日／平成28年９月15日㈭
会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー
参加者／189名

平成28年９月15日（木）、中秋の名月の日に、「観月の集い2016 in 高志の国文学館」を開催。ステージでは、洋遊会（高岡市）による「越天楽」や「五常楽」などの雅楽演奏が行われた後、澤武紀行氏（テノール）による声楽（ピアノ：竹内佳代 氏）や、アナウンサーの廣川奈美子氏による『山月記』の朗読が行われ、聴衆を魅了した。

その他、会場では富山県茶道連盟による呈茶が振る舞われたほか、富山県華道連合会によるいけばなの展示も行われた。

□大伴家持生誕1300年記念事業　平成の越中万葉－中学生短歌講座－

大伴家持生誕1300年（2018年）に合わせて初めて企画。

県内の中学生を対象に、富山県歌人連盟の方々を講師にお迎えし、「生活」・「自然」等をテーマに短歌を創作する授業を実施した。

開催日	場　所
9 /16（金）、 9 /29（木）	高岡市立中田中学校
10/25（火）、10/31（月）	富山市立三成中学校

□朗読と音楽の夕べ

９月から11月にかけて、県内アナウンサーによる富山県ゆかりの文学作品などの朗読と、音楽演奏を組み合わせた「朗読と音楽の夕べ」を開催。

第１回では､射水市新湊を舞台に撮影された映画『人生の約束』を北日本放送の大沢綾子アナウンサーが朗読し、多くの参加者を魅了した。

開催日	出演者	作　品	観覧者数
9 /30(金)	朗読：大沢　綾子 氏（北日本放送） 演奏：清水　香里 氏（ピアノ）	山川　健一 『人生の約束』	144
10/14(金)	朗読：杉嶋　亮作 氏（ＮＨＫ富山放送局） 演奏：髙野　葉子 氏（ホルン） 竹内　佳代 氏（ピアノ）	サン＝テグジュベリ 『星の王子さま』	136
10/22(土)	朗読：今井　隆信 氏（ＦＭとやま） 演奏：増山　理恵 氏（フルート） 田口めぐみ 氏（ピアノ）	夏目　漱石 『吾輩は猫である』	108
11/12(土)	朗読：深津　麻弓 氏（富山テレビ放送） 演奏：藤田　千穂 氏（ヴァイオリン） 奥田　知絵 氏（ピアノ）	向田　邦子 『思い出トランプ』 より	124
11/26(土)	朗読：谷口　菜月 氏（チューリップテレビ） 演奏：島　果奈江 氏（クラリネット） 戸島　園恵 氏（ピアノ）	星野　道夫 『旅をする木』	136

□映画「カノン」パネル展

開催日／平成28年10月１日㈯～12月28日㈰
会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

高志の国文学館では､黒部市等を舞台にした映画「カノン」公開にあわせて、ライブラリーコーナーにおいてパネル展を開催した。

映画「カノン」は、三姉妹の次女・藍（比嘉愛未）が住む富山県黒部市を主な舞台に、母・美津子（鈴木保奈美）が生きてきた過去の足跡を訪ね歩く物語。パネル展では、映画で使用された台本（サイン入り）や出演者の色紙、映画紹介・ロケ地マップ・映画シーンのパネルなどを展示した。

□平成28年度文学講座

平成28年度の文学講座は、「大学連携シリーズ」、「ゆかりの文学者シリーズ」及び「巨人の物語をひもとく」を開催した。

大学連携シリーズ

開催日	演　題	講　師	受講者数
5 /22(日)	「ずるい日本兵」と「不思議な黒人」－アメリカ映画に見る人種ステレオタイプ－	赤尾　千波 氏 (富山大学人文学部教授)	85
6 / 5 (日)	隠者と憂国詩人－古代中国人の苦悩に迫る－	大野　圭介 氏 (富山大学人文学部教授)	72
6 /12(日)	芥川龍之介と人間の「弱さ」	小谷　瑛輔 氏 (富山大学人文学部准教授)	90
6 /18(土)	トナカイ遊牧民コリャークのことば－その豊かな言語世界と消滅の危機－	呉人　　恵 氏 (富山大学人文学部教授)	48

ゆかりの文学者シリーズ

開催日	演　題	講　師	受講者数
9 / 3 (土)	小寺菊子－女の人生を描き続けた閨秀	浅生　幸子 氏 (富山近代史研究会理事、越中人譚『小寺菊子』の部　執筆者、富山国際大学非常勤講師)	62
9 /22(木・祝)	「遠望」・渡辺順三	坂井　修一 氏 (俳誌『かりん』編集人、現代歌人協会理事、「ＮＨＫ短歌」講師、東京大学教授)	72
10/ 1 (土)	筏井竹の門覚書	江沼　半夏 氏 (富山県歌人連盟顧問、『筏井竹の門覚書』著者、高志の国文学館常設展示「筏井竹の門」監修者)	36
10/ 8 (土)	文学は国境を超えて －佐伯彰一氏の文学的生涯	菅野　昭正 氏 (世田谷文学館館長、文芸評論家、東京大学名誉教授)	56

巨人の物語をひもとく

開催日	演　題	講　師	受講者数
10/23(日)	日本近現代史の中の松村謙三	武田　知己 氏 (大東文化大学法学部教授、「松村謙三塾」(2016年8月於南砺市福光) に協力、『重光葵と戦後政治』著者)	84
11/ 3 (木・祝)	浅野総一郎．九転十起の生涯	新田　純子 氏 (「第26回女流新人賞」(中央公論社) 受賞作家、日本ペンクラブ会員、『九転十起の男－日本の近代をつくった浅野総一郎』などの著者)	120
11/19(土)	時代の波浪を乗り越えて －安田善次郎の生涯－	渡辺　房男 氏 (元 NHK エンタープライズプロデューサー、『桜田門外十万坪』(第23回歴史文学賞)、『儲けすぎた男　小説・安田善次郎』などの著者)	90
12/ 3 (土)	「セルフ・メイドの男」 －大谷米太郎の生き様－	米原　　寛 氏 (越中史壇会会長、富山市・射水市文化財保護審議会委員長、元富山県〔立山博物館〕館長)	87

□平家琵琶演奏会

開催日／平成28年10月16日㈰
会　場／ライブラリーコーナー
参加者／234名

前田流平家詞曲相伝である大野美子氏による平家琵琶演奏会を開催。富山大学人文学部人文学科の呉羽長教授によるレクチャートーク「平家物語と越中」で平家物語における木曽義仲像や倶利伽羅合戦について解説いただいた後、大野美子氏に「倶利伽羅落（くりからおとし）」及び「訪月（つきみ）」を演奏いただき、有名な倶利伽羅合戦の場面や八坂流訪月の世界を表現いただいた。

□「高志の国文学」情景作品コンクール入賞作品展示

開催日／平成28年10月22日㈯～12月５日㈪
会　場／高志の国文学館エントランスロビー

このコンクールは、先人の喜び、悲しみ、悩み、感動などを伝える「高志の国文学」にふれ、感じた心情や情景を、文芸や美術、写真で表現したものを中学生・高校生を対象に募集した。今回は、応募のあった1,672点（文芸1,131点、美術140点、写真401点）のなかから、入賞した43点を展示した。

□室内楽フェスティバル

開催日／平成28年10月29日㈯
会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー
参加者／77名

とやま室内楽フェスティバルは、若手室内楽演奏家を育成し、その成果を富山県の音楽芸術の振興に活かす、国内でも特色のある音楽祭で、その一環として当館や水墨美術館などでコンサートを開催。

今回は、「京トリオ」（ピアノ三重奏）の江川菜緒さん（ヴァイオリン）、西村まなみさん（チェロ）、塚田尚吾さん（ピアノ）にご出演いただき、エルガーの「愛の挨拶」やサン＝サーンスの「白鳥」、モンティの「チャールダーシュ」などを披露いただき、美しい演奏で聴衆を魅了した。

□小学生による朗読劇

開催日／平成28年11月23日（㈰・祝）
会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー
参加者／121名

富山県内の小学生が、富山県出身の俳優・西村まさ彦さんと朗読劇・合唱・紙芝居を披露する「富山の民話・日本語の美しさを知る朗読劇《小学生編》」が開催された。

公演では、「鳴海村の石棺」、「闇峠三つの火の魂の事」、「六治古物語」の朗読の後、「こいのぼり」と「荒城の月」の合唱が行われ、その後西村さんが、ウルトラかいじゅう絵本シリーズの「ぼくらの星」を子どもたちと一緒に朗読した。

□炉辺暖話

コーヒーを飲みながら、高志の国文学館の学芸員と設定されたテーマについて語り合う「高志の国文学館炉辺暖話」を開催。平成28年度は以下のテーマで全6回実施した。

開催日	担当・テーマ	参加者数
12/11(日)	事業部長　生田　美秋 絵本の絵を読むということ－『はじめてのおつかい』（筒井頼子文、林明子絵）、『かいじゅうたちのいるところ』（モーリス・センダック作）を事例として	32
1/15(日)	事業課長　三津島　淳 「藤と公孫樹の陰－大伴家持そして馬場あき子」	35
2/5(日)	主任（学芸員）　大川原　竜一 「越中国守・大伴家持の仕事」	37
2/26(日)	主任　菅田　智雄 「浅野総一郎とその周辺」	26
3/5(日)	主任（学芸員）　小林　加代子 「『平家物語』に見る悪人と琵琶」	30
3/12(日)	主任（学芸員）　綿引　香織 「作家の書簡を読む」	20

□書道パフォーマンス

伝統文化としての書の本質を磨きながら、新しい書の魅力を探求し、新たな文化を創造することを目指して、書道パフォーマンスを開催。今年度は、大伴家持が詠んだ歌をテーマに、富山県立富山中部高等学校及び富山県立富山高等学校の書道部によるパフォーマンスを開催。

開催日	出　演	参加者数
1/7(土)	富山県立富山中部高等学校書道部（テーマ：「新年・雪」）	188
3/11(土)	富山県立富山高等学校書道部（テーマ：「早春・花」）	158

□第３回高校生による朗読会

開催日／平成29年１月22日(日)
会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー
出場校／富山県立呉羽高等学校放送部
富山県立桜井高等学校放送部
富山県立富山高等学校放送部
富山県立砺波高等学校放送部
参加者／78名

平成29年１月22日(日)、高校生に日頃の練習の成果を発表いただくとともに、幅広い年代の方々に朗読の魅力と可能性を再発見していただくため、第３回高校生による朗読会を開催。

高志の国文学館長賞には、桜井高等学校が選ばれ、賞状、カップ、中西館長サイン入り著書『ことばのこころ』が贈られた。

また、この日は、第69回「富山県少年少女自作童話大会」(北日本新聞社主催）受賞者による発表も行われ、最優秀賞を受賞した高岡市立平米小学校６年の田辺あこさんと、優秀賞を受賞した高岡市立福岡小学校５年の西野真珠さんがそれぞれ『リゾルート』と『心の花びら』を披露し、会場を魅了した。

学校名	作品
富山県立呉羽高等学校放送部	「おおかみこどもの雨と雪」(細田　守)
富山県立桜井高等学校放送部	「海のいのち」(立松　和平)
富山県立富山高等学校放送部	「注文の多い料理店」(宮沢　賢治)
富山県立砺波高等学校放送部	「つららの坊や」(青木　新門) 「そのままの君が好き」(マックス・ルケード)

□大伴家持生誕1300年記念事業
家持シンポジウム「歌をよむ国司・家持が歩いた越中の風土」

開催日／平成29年１月29日回
会　場／高志会館２階カルチャーホール
参加者／280名

平成30年の大伴家持生誕1300年に向けて、富山県民のみなさんに、大伴家持についての理解を深めていただくためのシンポジウム「歌をよむ国司・家持が歩いた越中の風土」を開催。

歌人で文化功労者の岡井隆氏による基調講演「風土と詩心」の後、金田章裕氏（京都大学名誉教授・砺波散村地域研究所長）、小嶋芳孝氏（金沢学院大学教授）、鈴木瑞麿氏（氷見市在住万葉研究家・伊勢玉神社宮司）、安念幹倫氏（富山県埋蔵文化財センター所長）によるパネルディスカッションを開催し、大伴家持が赴任していた時代の越中や、家持の足跡について語り合い、越中の風土の中で数々の歌を詠んだ家持について考えた。

□越中万葉・東京シンポジウム　大伴家持生誕1300年記念
「いま、富山へ－万葉歌人の詩心をはぐくんだ風景」

開催日／平成29年３月26日回
会　場／日本橋三越劇場
参加者／500名

平成30年の大伴家持生誕1300年に向けて、家持が奈良時代に国守として赴任し、多くの歌を詠んだ越中の魅力を発信するため、越中万葉・東京シンポジウム「いま、富山へ－万葉歌人の詩心をはぐくんだ風景」を開催。

マンガ家の里中満智子氏が「言霊の人（ことだまのひと）」、高志の国文学館の中西進館長が「海やまのあいだ」と題し、それぞれ講演した後、「いま、富山へ－万葉歌人の詩心をはぐくんだ風景」をテーマに、里中氏、中西館長、石井知事の３名によるパネルディスカッションを行った。

4. 高志の国文学館友の会

高志の国文学館友の会は、文学館の開館に先立つ平成24年６月18日、「文学館の事業に基盤をおいて、ふるさと文学を中心とする幅広い芸術文化に関する活動を通して、多くの人々が生涯学習の機会を持ち、会員相互に親睦を深めるとともに、文学館と連携し、文学館の活動を広く支援していくことを目的」として設立された。

平成28年度は、柳原正樹氏（富山県水墨美術館顧問）特別講演会「美術よもやま話－杉山寧と三島由紀夫」の共催をはじめ、企画展関連バスツアーや研修旅行、落合務シェフの料理＆トークショーの開催のほか、文学館が主催する各種イベントや講演会等への優先参加を行った。

会員数は、727名となった。

会員数

一般会員	557	学生会員	1
法人会員	16		
５年会員（個人）	131	５年会員（法人）	2
賛助会員（個人）	18	賛助会員（法人）	2

会　費

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
法人会員	20,000円
５年会員（個）	100,000円
５年会員（法）	100,000円
賛助会員	一口10,000円

特　典

・文学館ニュースや各種行事案内の配布
・文学館及び友の会主催行事への優先参加
・文学館が発行する図録等の割引購入
・文学館内レストランの飲み物代優待
・文学館内レストランのランチ予約優待

平成28年度事業

・企画展「竹久夢二展」バスツアー
5月14日（土）　参加者23名
金沢湯涌夢二館、石川近代文学館など

・企画展「浅野総一郎　九転十起の生涯」
ゆかりの地を訪ねて
11月27日（日）　参加者33名
帰望郷館、小牧ダム、庄川水記念公園など

・春の研修旅行
「北陸新幹線で行く神奈川近代文学館と鎌倉文学館」
5月20日（金）～５月21日（土）参加者36名
神奈川近代文学館、鎌倉文学館、長谷寺など

・秋の研修旅行
「京都・神戸・姫路を巡る」
11月５日（土）～11月６日（日）参加者40名
京都国立近代美術館、神戸文学館、姫路城など

・柳原正樹氏（富山県水墨美術館顧問）特別講演会
「美術よもやま話－杉山寧と三島由紀夫」
（高志の国文学館友の会、富山県水墨美術館友の会、富山近美友の会共催）
2月12日　参加者100名

・落合シェフ料理＆トークショー
9月　9日　参加者　134名
11月 13日　参加者　135名
2月　4日　参加者　141名

理事会

６月20日（月）

Ⅲ　管理･運営

1．利用状況

(1)入館者数・観覧者数

区　分	会　期	日　数 (a)	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者計 (b)	1日 あたり (b/a)	
夢二の旅－たまき・翁久允とのゆかりにふれつつ	H28.4.1～5.16 (H28.3.21～5.16)	41 (50)	17,006 (20,212)	4,596 (5,230)	4,523 (5,118)	9,119 (10,348)	222 (207)	※
面白い箱！アニメづくりのスタジオの中へ	H28.7.9～10.10	81	31,304	6,302	6,718	13,020	161	
浅野総一郎－九転十起の生涯	H28.10.29～12.19	44	16,763	1,554	1,609	3,163	72	
知られざる 作家の世界―書簡から直筆原稿、書画まで	H29.1.14～2.20	33	10,192	835	814	1,649	50	
官人　大伴家持－困難な時代を生きた良心	H29.3.19～3.31 (H29.3.19～6.5)	11 (69)	3,869 (25,492)	552 (4,769)	581 (4,869)	1,133 (9,638)	103 (140)	※
常設展・ライブラリーのみ		93	27,967		2,015	2,015	22	
ライブラリーのみ		4	1,037					
合　計		307	108,138	13,839	16,260	30,099	98	
休館日		58						

開館日数／307日　うち　臨時開館５日（５月２日、５月６日、８月12日、９月23日、11月４日）
休館日数／58日
開館延長／３日　　ライブラリー部門を19時まで延長
開館時間／９時30分から18時まで（観覧受付は17時30分まで）
休 館 日／火曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始（12月28日から１月３日）

※年度をまたぐ企画展については28年度分の実績（上段）と会期全体の実績（下段）を併記

⑵研修室の利用状況

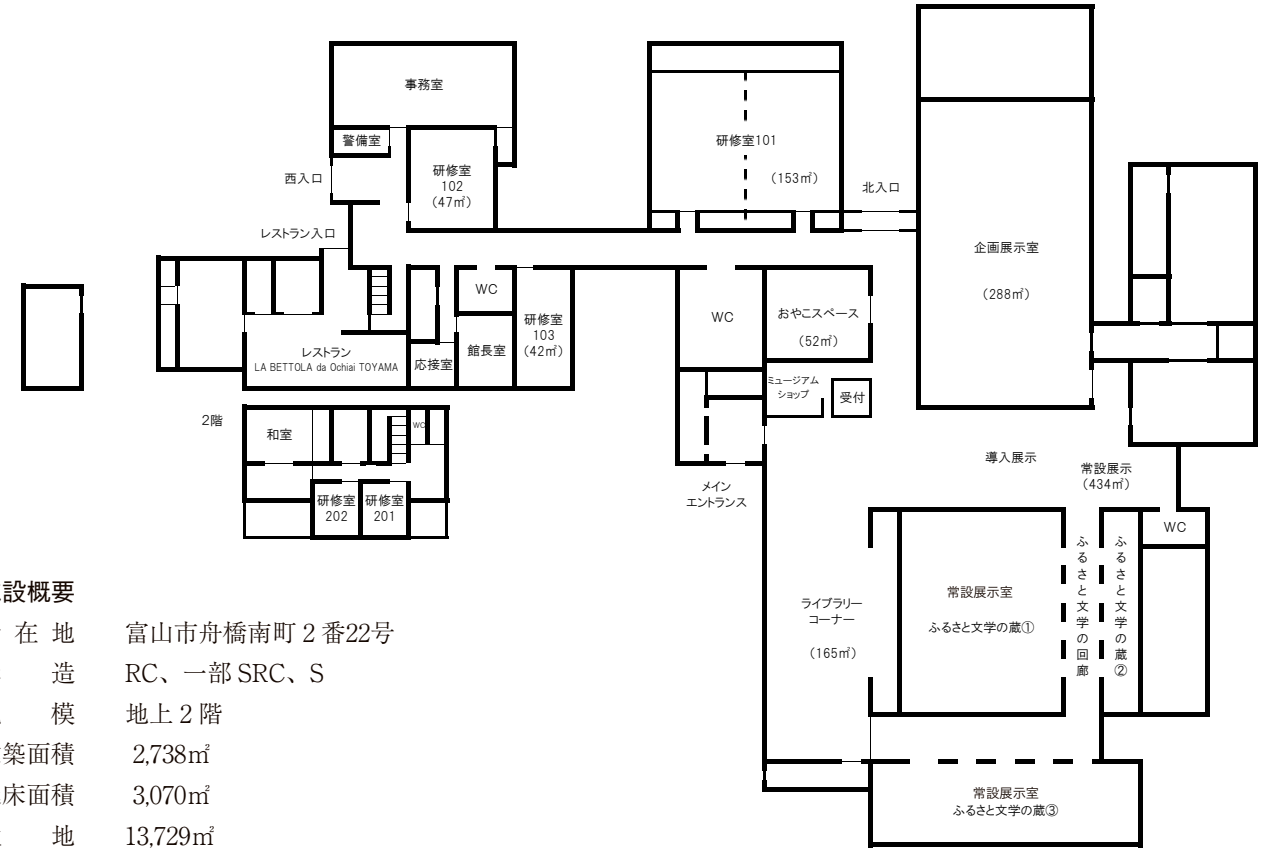
年	月	開館日数	休館日数	研修室101		研修室102		研修室103	
				件数	人数	件数	人数	件数	人数
28年	4月	26	4	20	680	34	146	40	332
	5月	27	4	15	351	13	78	27	194
	6月	26	4	15	363	15	95	41	236
	7月	27	4	26	684	14	67	35	190
	8月	26	5	21	352	24	101	26	166
	9月	26	4	27	1,002	26	87	36	228
	10月	27	4	18	460	22	86	48	265
	11月	24	6	29	1,151	28	64	40	263
	12月	23	8	13	384	18	151	34	241
29年	1月	24	7	19	310	10	40	24	156
	2月	24	4	25	1,317	23	88	34	444
	3月	27	4	26	469	13	117	42	338
合　計		307	58	254	7,523	240	1,120	427	3,053

年	月	研修室201		研修室202		和　室		合　計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
28年	4月	33	102	16	36	19	43	162	1,339
	5月	32	97	17	34	15	40	119	794
	6月	42	116	14	34	11	29	138	873
	7月	44	120	25	65	16	56	160	1,182
	8月	28	74	18	22	12	28	129	743
	9月	36	110	38	53	22	42	185	1,522
	10月	48	135	32	62	8	21	176	1,029
	11月	30	97	26	53	17	41	170	1,669
	12月	31	91	20	43	16	39	132	949
29年	1月	33	87	17	29	14	28	117	650
	2月	33	98	18	45	18	38	151	2,030
	3月	50	189	27	106	20	105	178	1,324
合　計		440	1,316	268	582	188	510	1,817	14,104

⑶年度別利用状況

区　分	開館日数	入館者	企画展観覧者	常設展観覧者	観覧者合　計	1　日当たり	研修室利用	
							件数	人数
平成24年度	222	121,211	21,653	30,668	52,321	236	1,364	11,807
平成25年度	307	126,470	25,017	30,431	55,448	181	1,337	12,592
平成26年度	305	115,866	16,232	19,705	35,937	118	1,650	14,875
平成27年度	305	107,391	13,133	16,341	29,474	97	1,592	13,196
平成28年度	307	108,138	13,839	16,260	30,099	98	1,817	14,104
合　計	1,446	579,076	89,874	113,405	203,279	141	7,760	66,574

2. 施設の概要



施設概要

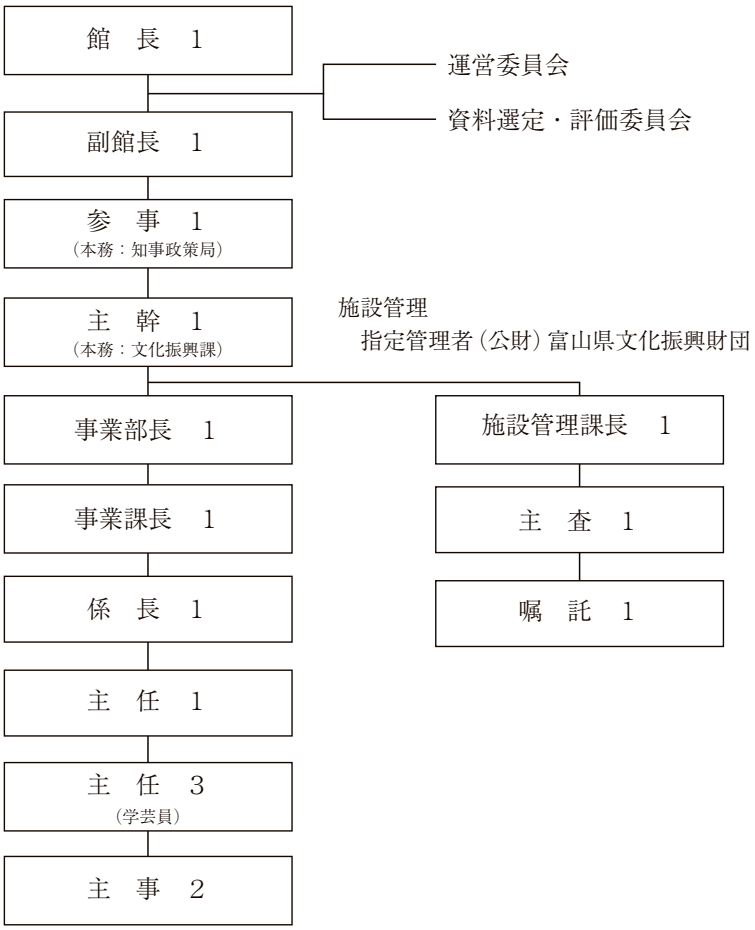
所 在 地	富山市舟橋南町２番22号
構　　造	RC、一部 SRC、S
規　　模	地上２階
建築面積	2,738㎡
延床面積	3,070㎡
敷　　地	13,729㎡
設　　計	シーラカンスアンドアソシエイツ
工事施工	日本海建興、酒井建設、辻建設、乃村工藝社　ほか
総 工 費	1,947,135,080円
工　　期	起工　平成23年７月４日
	竣工　平成24年７月３日

高志の国文学館受賞等の記録

全建賞	一般社団法人全日本建設技術協会	平成25年６月28日
中部建築賞	中部建築賞協議会	平成25年12月11日
日本建築学会作品選奨	一般社団法人日本建築学会	平成26年５月30日
第44回富山県建築賞	富山県建築賞協議会	平成26年１月24日
JIA 優秀建築賞	公益社団法人日本建築家協会	平成27年４月24日
うるおい環境とやま賞	富山県	平成27年11月25日
ＢＳＣ賞	一般社団法人日本建設業連合会	平成28年11月24日

3. 機構

平成29年3月31日現在



□指定管理者の指定状況

平成24年７月～平成26年度　　（公財）富山県文化振興財団
平成27年度～平成31年度　　（公財）富山県文化振興財団

□職員名簿

職	氏　名	備　考
館　長	中　西　進	
副館長	須　河　弘　美	
参　事	松　島　吉　信	本務　知事政策局参事
主　幹	中　村　毅	本務　文化振興課主幹
事業部長	生　田　美　秋	
事業課長	三津島　淳	
係　長	川　渕　貴	兼務　文化振興課
主　任	菅　田　智　雄	
主　任	綿　引　香　織	学芸員
主　任	大川原　竜　一	学芸員
主　任	小　林　加代子	学芸員
主　事	関　谷　俊　輔	兼務　文化振興課
主　事	水　岡　大　思	本務　文化振興課
施設管理課長	冨　岡　准　二	
主　査	長　井　秀　年	
嘱　託	魚　屋　美智乃	

4. 組織

平成29年3月31日現在

□高志の国文学館運営委員会委員

氏　　名	役　職　等
上田　洋一	富山県歌人連盟会長
碓井　哲也	日本青年会議所富山ブロック協議会長
瀬川　信子	公募委員、県ＰＴＡ連合会家庭教育委員長
瀬川　ゆき	世田谷文学館学芸部長
髙木　繁雄　※	富山県商工会議所連合会会長、㈱北陸銀行特別参与
多田　慎一	第一物産㈱相談役
立野　幸雄	射水市大島絵本館長
玉木　恵子	公募委員
坪池　　宏	富山県高等学校校長協会長
飛田　久子	富山県婦人会理事
中井　敏郎	富山商工会議所常議員、 東亜薬品㈱代表取締役社長
マリ・クリスティーヌ	富山大学客員特別研究員
森井　信次	富山県商工会議所青年部連合会会長
八木　光昭	元聖徳大学教授
吉田　　泉	（一社）富山県芸術文化協会会長

※委員長

□ふるさと文学資料選定・評価委員会委員

①書籍等

氏　　名	役　職　等
八木　光昭	元聖徳大学教授
晒谷　和子	高岡市立博物館長
広井　　睦	富山県立図書館長
久泉　迪雄	日本短歌協会副理事長、富山県歌人連盟名誉会長
河原　桂介	とやま同人誌会会長

②絵画

氏　　名	役　職　等
大熊　敏之	富山大学芸術文化学部教授
島　　敦彦	国立国際美術館副館長
福永　　治	広島市現代美術館長

□高志の国文学館アドバイザー

氏　　名	役　職　等
篠田　正浩	映画監督
滝田洋二郎	映画監督
藤子不二雄Ⓐ	漫画家

□高志の国文学館新企画アドバイザー

氏　　名	役　職　等
太田麻衣子	クリエイティブ・ディレクター
河合　　隆	有識者
高成麻畝子	ドラマプロデューサー
本木　克英	映画監督
屋敷陽太郎	ドラマプロデューサー
山内マリコ	作家

Ⅳ 資　　料

沿革

年　月　日	事　　項
平成24年７月６日	開館
７月６日	開館記念展「大伴家持と越中万葉―風土とこだまする家持の心」開催
７月15日	入館者1万人達成
８月８日	秋篠宮同妃両殿下ご夫妻並びに佳子内親王殿下ご来館
12月８日	開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代－小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道－」開催
平成25年２月３日	入館者10万人達成
３月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪－大自然に生きる母と子の物語－」開催
４月７日	写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」開催
５月26日	入館者15万人達成
７月７日	特別展「立山曼荼羅を文学する」開催
８月10日	特別展「辺見じゅんの世界」開催
10月10日	入館者20万人達成
10月18日	高円宮妃殿下ご来館
11月３日	中西進館長　文化勲章受章
11月17日	企画展「『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝－棟方志功の感応力」開催
12月14日	中西進館長　富山県特別栄誉賞授与式・文化勲章受章記念講演会　開催
平成26年３月20日	企画展「まんが家　藤子・Ｆ・不二雄のＳＦ（すこし・ふしぎ）」開催
４月６日	入館者25万人達成
４月26日	棟方志功未公開作品特別展示　開催
７月26日	企画展「風の盆　深奥の心をさぐる」開催
８月４日	入館者30万人達成
10月10日	ギャラリー展「竹久夢二展」開催
10月30日	企画展「川の文学－うつりゆく富山の歴史の中で－」開催
平成27年１月７日	ギャラリー展「「冷光文庫」展－富山におり立った「雪の女王」を訪ねて－」開催
１月28日	企画展「川の文学　美しきふるさと－富山の川をめぐる文学と美術の交響－」開催
３月13日	企画展「三禅定の旅－立山・白山・富士山をめぐる－」開催
５月20日	ギャラリー展「豊かなイマジネーション　妖怪がひそむ富山の民話」開催
５月29日	特別企画展「『田園発 港行き自転車』藤森兼明　挿絵原画展」開催
７月11日	企画展「あの日、青い空から－久世光彦の人間主義」開催
７月19日	入館者40万人達成
９月９日	ギャラリー展「「海」物語　憧れ・神秘・畏怖～海づくり大会によせて～」開催
10月18日	企画展「山の湯の詩情－田中冬二へのいざない」開催
平成28年１月23日	企画展「松本清張を魅惑した北陸－ミステリー文学でたどる－」開催
３月21日	企画展「夢二の旅－たまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」開催
６月３日	ギャラリー展「富山映画展－スクリーンの中の人と風景－」開催
７月３日	入館者50万人達成
７月９日	企画展「面白い箱！アニメづくりのスタジオの中へ」開催
10月29日	企画展「浅野総一郎－九転十起の生涯」開催
平成29年１月14日	企画展「知られざる作家の世界－書簡から直筆原稿、書画まで」開催
３月19日	企画展「官人 大伴家持－困難な時代を生きた良心」開催

V 関係法令

高志の国文学館条例

平成23年９月28日
富山県条例第41号
改正　平成24年６月29日条例第38号
平成26年３月26日条例第21号
平成28年３月25日条例第22号

高志の国文学館条例を公布する。

高志の国文学館条例

（趣旨）

第１条　この条例は、高志の国文学館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第２条　富山県の自然及び風土の中ではぐくまれた文学作品その他の文学関係資料を紹介し、文学に関する県民の知識を深め、教養の向上を図るとともに、県民自らが親しみ、学び、創造し、交流することができるよう、県民に文学を中心とする文化活動の場を提供し、もって教育、学術及び文化の振興並びに心豊かな地域社会の形成に寄与するため、高志の国文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

（位置）

第３条　文学館は、富山市に置く。

（事業）

第４条　文学館は、次に掲げる事業を行う。

⑴　文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者に関する資料（以下「文学資料」という。）を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。

⑵　文学資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、及び研修室等を設置してこれを利用させること。

⑶　文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。

⑷　文学資料に関する専門的な調査研究を行うこと。

⑸　文学資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

⑹　前各号に掲げるもののほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な事業

（指定管理者による管理）

第５条　知事は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の２第３項の規定により、法人その他の団体であって知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に文学館の管理を行わせるものとする。

（指定管理者が行う業務）

第６条　前条の規定により指定管理者に行わせる管理の業務は、次に掲げる業務とする。

⑴　文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務

⑵　第13条第１項の規定による専用使用の承認に関する業務

⑶　第15条第１項に規定する使用料の徴収に関する業務

⑷　その他文学館の管理に関して知事が必要と認める業務

（休館日）

第７条　文学館の休館日は、次に掲げる日とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、休館日以外の日に休館し、又は休館日に開館することができる。

⑴　火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる場合を除く。）

⑵　休日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日に当たる場合は、その日後においてその日に最も近いこれらの日以外の日）

⑶　12月29日から翌年の１月３日までの日

（開館時間）

第８条　文学館の開館時間は、午前９時30分から午後６時までとする。ただし、研修室及び和室の開館時間については午前９時30分から午後９時まで、駐車場の開館時間については午前９時から午後９時30分までとする。

２　前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

（平24条例38・一部改正）

（入館の拒否及び制限）

第９条　指定管理者は、文学館に入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒否することができる。

⑴　他の入館者に迷惑となる行為をするおそれがあるとき。

⑵　施設、設備又は文学資料（次条第１項第２号において「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するおそれがあるとき。

２　指定管理者は、文学館の管理上必要があると認めるときは、入館を制限することができる。

（遵守事項等）

第10条　文学館に入館した者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

⑴　他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。

⑵　施設等を汚損し、又は損傷しないこと。

⑶　指定された場所以外の場所で喫煙又は飲食をしないこと。

⑷　その他知事が特に指示した事項

２　知事は、文学館に入館した者が前項の規定に違反したときは、その者に退館を命ずることができる。

（常設展示観覧料及び企画展示観覧料）

第11条　常設展示室において展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第１に定める金額の常設展示観覧料を納めなければならない。ただし、企画展示観覧料を納める者は、この限りでない。

２　企画展示室において特別に展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第１に定める金額の企画展示観覧料を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（特別観覧）

第12条　文学館に展示し、又は保管している文学資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

２　前項の承認には、文学資料の管理上必要な条件を付することができる。

３　第１項の承認を受けた者は、別表第１に定める金額の特別観覧料を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（専用使用の承認等）

第13条　文学館の施設のうち別表第１に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。承認を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

２　指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が第９条第１項各号のいずれかに該当すると認めるとき、その他文学館の設置の目的を達成するについて不適当と認めるときは、前項の承認をしないものとする。

３　第１項の承認には、文学館の管理上必要な条件を付することができる。

（平24条例38・一部改正）

（施設使用料及び駐車料金）

第14条　前条第１項の承認を受けた者（以下「専用使用者」という。）は別表第１に定める金額の施設使用料を、駐車場を使用する者は別表第２に定める金額の駐車料金を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（使用料の徴収方法）

第15条　常設展示観覧料、企画展示観覧料及び特別観覧料並びに施設使用料及び駐車料金（以下「使用料」という。）は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難い場合においては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

２　使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（平24条例38・一部改正）

（使用料の減免）

第16条　知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

（使用料の還付）

第17条　既に徴収した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（専用使用の承認の取消し等）

第18条　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第13条第１項の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

⑴　専用使用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

⑵　専用使用者が偽りその他不正の手段により第13条第１項の承認を受けた事実が明らかとなったとき。

⑶　専用使用者が第13条第３項の規定による承認の条件に違反したとき。

⑷　その他文学館の管理上特に支障があると認められるとき。

（高志の国文学館運営委員会）

第19条　文学館に高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会は、文学館の運営に関し知事の諮問に応ずるとともに、知事に対し意見を述べるものとする。

第20条　委員会は、委員20人以内で組織する。

２　委員の任期は、２年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

３　委員は、再任されることができる。

第21条　委員会に、委員長及び副委員長１人を置く。

２　委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

３　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（規則への委任）

第22条　この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附　則

（施行期日）

１　この条例は、平成23年10月１日から施行する。ただし、第５条から第21条まで、附則第２項及び別表第１の規定は、規則で定める日から施行する。

（平成24年規則第40号で附則第１項ただし書に規定する規定は、平成24年７月６日から施行）

（平24条例38・一部改正）

（施設使用料の特例）

２　前項の規則で定める日から起算して２年を経過する日までの間における別表第１の４の規定の適用について

は、同表中「4,350円」とあるのは「2,900円」と、「860円」とあるのは「570円」と、「3,890円」とあるのは「2,590円」と、「770円」とあるのは「510円」と、「1,390円」とあるのは「930円」と、「280円」とあるのは「190円」とする。

（平24条例38・平26条例21・一部改正）

附　則（平成24年条例第38号）

（施行期日）

1　この条例は、平成24年7月6日から施行する。

（経過措置）

2　この条例の施行の日から平成25年3月31日までの間における第6条の規定の適用については、同条第1号中「施設」とあるのは「施設（駐車場を除く。）」と、同条第3号中「使用料」とあるのは「使用料（駐車料金を除く。）」とする。

附　則（平成26年条例第21号）抄

（施行期日）

1　この条例は、平成26年4月1日から施行する。

（高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置）

3　この条例の施行の際現に第8条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第8条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1（第11条、第12条、第13条、第14条関係）

（平24条例38・旧別表・一部改正、平26条例21・一部改正）

1　常設展示観覧料

区　分	金額（1人1回につき）	
	個人	20人以上の団体
大学の学生及びこれに準ずる者	160円	100円
一般	200円	160円

備考　小学校の児童、中学校の生徒、高等学校の生徒及びこれらに準ずる者に係る常設展示観覧料は、無料とする。

2　企画展示観覧料

1人1回につき1,500円の範囲内で知事が定める金額

3　特別観覧料

1回1点につき4,100円の範囲内で知事が定める金額

4　施設使用料

区　分		使用時間3時間までの金額	超過時間1時間の金額
研修室1	全部使用	14,160円	3,540円
	2分の1使用	7,040円	1,760円
研修室2		4,350円	860円
研修室3		3,890円	770円
研修室4		1,390円	280円
研修室5		1,390円	280円
和室		1,670円	330円
附属設備		実費を勘案して知事が定める額	

備考

1　使用時間1時間未満の端数は、1時間として計算する。

2　使用時間を短縮した場合においても、施設使用料は、減額しない。

別表第2（第14条関係）

（平24条例38・追加）

種　別	単　位	金　額
基本料金	入場した時から1時間までにつき1台	320円
加算料金	入場した時から1時間を超える時間30分までごとにつき1台	110円

高志の国文学館条例施行規則

平成24年７月５日
富山県規則第43号
改正　平成28年３月31日規則第32号

高志の国文学館条例施行規則を次のように定め、公布する。

高志の国文学館条例施行規則

（趣旨）

第１条　この規則は、高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（入室時間）

第２条　高志の国文学館（以下「文学館」という。）の常設展示室及び企画展示室に入室できる時間は、午前９時30分から午後５時30分までとする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

（特別観覧の承認申請）

第３条　条例第12条第１項の規定により文学館に展示し、又は保管している文学資料（条例第４条第１号に規定する文学資料をいう。第６条及び第９条において同じ。）の模写、模造、撮影等（以下この条において「特別観覧」という。）の承認を受けようとする者は、特別観覧をしようとする日の７日前までに、高志の国文学館文学資料特別観覧承認申請書（様式第１号）を知事に提出するものとする。

（専用使用の承認申請）

第４条　条例第13条第１項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けようとする者は、高志の国文学館施設専用使用承認申請書（様式第２号）を指定管理者に提出するものとする。

２　前項の申請書は、専用して使用しようとする日（次条第１項において「専用使用日」という。）の３月前から前日までの間に提出するものとする。ただし、指定管理者が文学館の施設の使用に支障がないと認めるときは、この限りでない。

（専用使用の変更）

第５条　条例第13条第１項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けた者（次項及び第８条において「専用使用者」という。）は、専用使用日を変更しようとするときは、専用使用日の前日までに指定管理者の承認を受けるものとする。

２　専用使用者は、やむを得ない理由により当該承認に係る時間を超えて文学館の施設を使用する必要があるときは、あらかじめ指定管理者の承認を受けるものとする。

（駐車場を使用できる自動車）

（観覧料の減免）

第６条　条例第16条の規定により常設展示観覧料又は企画展示観覧料（以下この条において「観覧料」という。）を減免することができる場合及びその場合における減免の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

⑴　条例別表第１の１の表の備考に規定する者又は幼稚園の幼児の引率者が教育課程に基づく教育活動又は社会教育関係団体の教育活動として、常設展示室において展示している文学資料又は企画展示室において特別に展示している文学資料（以下この項において「常設展示等」という。）を観覧する場合　観覧料の全額

⑵　児童福祉法（昭和22年法律第164号）第７条第１項に規定する児童福祉施設に入所し、又は通所している者及びこれらの引率者が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑶　身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第４項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人（当該交付を受けた者１人につき１人に限る。以下この項において同じ。）が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑷　療育手帳制度について（昭和48年９月27日付け厚生省発児第156号厚生事務次官通知）に基づき療育手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑸　精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第２項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑹　70歳以上の者が常設展示室において展示している文学資料を観覧する場合　常設展示観覧料の全額

⑺　前各号に掲げるもののほか、知事が特別の理由があると認める場合　知事が必要と認める額

２　前項第１号又は第２号に掲げる場合における観覧料の減免は高志の国文学館観覧料減免申請書（様式第３号）を知事に提出することにより、同項第３号から第５号までに掲げる場合における観覧料の減免は身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の確認により、同項第６号に掲げる場合における常設展示観覧料の減免は同号に該当することを証するに足りる書類の確認により、同項第７号に掲げる場合における観覧料の減免は別に定めるところにより行うものとする。

第７条　文学館の駐車場を使用することができる自動車は、道路交通法（昭和35年法律第105号）第３条の普通自動車（積載物又は取付物を含めて、長さ５メートル以下、幅２メートル以下、高さ2.2メートル以下のもの

に限る。）とする。

（原状回復及び点検）

第８条　専用使用者は、その使用を終えたときは、直ちに施設及び設備を原状に復するとともに、指定管理者の点検を受けるものとする。

（施設等の汚損又は損傷の届出）

第９条　文学館の入館者は、施設、設備又は文学資料を汚損し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出て、その指示に従うものとする。

（高志の国文学館運営委員会）

第10条　高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）は、委員長が招集する。

２　委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

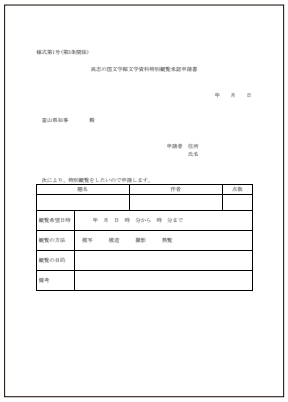
（細則）

第11条　この規則に定めるもののほか、文学館の管理及び運営に関し必要な事項は、知事が定める。

附　則

この規則は、平成24年７月６日から施行する。

様式第１号（第３条関係）



様式第１号（第3条関係）

高志の国文学館文学資料特別閲覧承認申請書

年　月　日

富山県知事　　殿

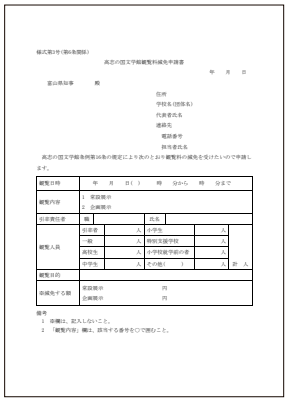
申請者　住所
氏名

次により、特別閲覧をしたいので申請します。

題名	作者	点数

閲覧希望日時	年　月　日　時　分から　時　分まで
閲覧の方法	模写　模造　撮影　熱覧
閲覧の目的	
備考	

様式第３号（第６条関係）



様式第3号（第6条関係）

高志の国文学館閲覧料減免申請書

年　月　日

富山県知事　　殿

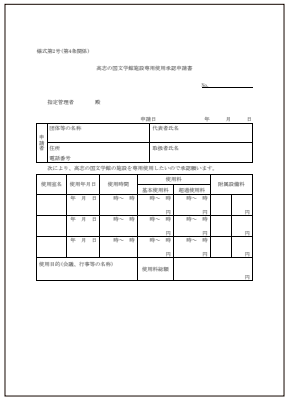
住所
学校名（団体名）
代表者氏名
連絡先
電話番号
担当者氏名

高志の国文学館条例第16条の規定により次のとおり閲覧料の減免を受けたいので申請します。

閲覧日時	年　月　日（　）　時　分から　時　分まで					
閲覧内容	1　常設展示 2　企画展示					
引率責任者	職		氏名			
閲覧人員	引率者	人	小学生	人		
	一般	人	特別支援学校	人		
	高校生	人	小学校就学前の者	人		
	中学生	人	その他（　）	人	計	人
閲覧目的						
申請免する額	常設展示	円				
	企画展示	円				

備考
１　申請は、記入しないこと。
２　「閲覧内容」欄は、該当する番号を○で囲むこと。

様式第２号（第４条関係）



様式第2号（第4条関係）

高志の国文学館電設専用使用承認申請書

No.

指定管理者　　殿

申請日　　年　月　日

申請者	団体等の名称	代表者氏名
	住所 電話番号	担当者氏名

次により、高志の国文学館の施設を専用使用したいので承認願います。

使用場所	使用年月日	使用時間	使用料			附属設備料	
			基本使用料	超過使用料			
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円	円		円
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円	円		円
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円	円		円
使用目的（会議、行事等の名称）			使用料総額		円		

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

平成24年７月５日
富山県訓令第10号

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程を次のように定め、公表する。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

（趣旨）

第１条　この訓令は、県職員及び県費負担教職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例（昭和26年富山県条例第73号）第４条第１項及び富山県職員の勤務時間に関する規程（昭和27年富山県訓令第１号）第３条の規定に基づき、高志の国文学館の職員（知事の指定する者を除く。以下「職員」という。）の勤務時間に関し必要な事項を定めるものとする。

（勤務時間）

第２条　職員の勤務時間は、午前８時30分から午後５時15分までとする。

２　高志の国文学館長（以下「館長」という。）は、業務の状況により必要があると認めるときは、勤務時間を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

（週休日及び勤務時間の割振り）

第３条　館長は、職員の週休日を日曜日及び土曜日以外の日とすることができる。

２　職員の勤務時間の割振りは、館長が定める。

（休憩時間）

第４条　職員の休憩時間は、１時間とし、館長が勤務時間の途中に置く。

附　則

この訓令は、平成24年７月６日から施行する。

高志の国文学館の使用料の額について

平成24年７月５日
富山県告示第317号
改正 平成26年３月26日告示第148号

高志の国文学館の使用料の額について

高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号）別表第１の４の表の知事が定める額は、次のとおりとし、平成24年７月６日から施行する。

品　名	単　位	金　額
ビデオプロジェクター（スクリーン付）	1式	2,930 円
拡声装置（マイク付）	1式	2,490 円

備考　この表に掲げる金額は使用時間３時間についての額とし、使用時間３時間未満の端数は３時間として計算する。

改正文（平成26年告示第148号）抄

平成26年４月１日から施行する。

平成28年度 高志の国文学館 年報

平成30年２月15日発行
編　集　高志の国文学館
富山県富山市舟橋南町2-22
TEL 076-431-5492
印　刷　北日本印刷株式会社
発　行　高志の国文学館

※許可なく転載、複製を禁じます。